

中国の人々と共に生きた日本女性
小説『大地の子』にもかかわった

トニイン 藤穎こと藤原素子さん講演会

～日中平和友好条約40周年記念・満蒙開拓平和記念館開館5周年記念～

「唐詩」の世界に憧れ、中国文学の研究のため
まだ国交のない新中国へ22歳で単身渡っていった。
1953年。民衆の中に飛び込み、家庭を持ち、
教師をしながら中国の人々と真摯につきあい、共に
生きてきた。大飢饉を耐え、文化大革命を乗り越え、
国交正常化後は中国の研究機関の最高峰、中国社会
科学院哲学研究所で教授を務める。
小説『大地の子』執筆のため訪中した山崎豊子氏に、
残留孤児であり同じ研究所で働く劉奔こと原博昭氏
(清内路村出身)を紹介。主人公・陸一心のモデルの
一人とされる。



2018年6月2日（土） 11:00～12:15

阿智村コミュニティ館2階ホール ＊参加無料

演題 「出会いでつなぐ日中友好」

主催 飯田日中友好協会 共催 満蒙開拓平和記念館

劉奔こと原博昭さんについて

『大地の子』の主人公・陸一心のモデルの一人とされる。長野県阿智村旧清内路村出身。
下伊那西部5ヶ村（智里、清内路、浪合、平谷、根羽）から送出された「南信濃郷開拓団」
としてソ満国境近くへ一家7人で入植。ソ連侵攻、逃避行の末に「佐渡開拓団跡事件」で
多くの団員が悲惨な死を遂げた。博昭少年は終戦当時3歳。辛うじて生き延び残留孤児となる。
養父は小学校の教師をしており、博昭さん進学のため黒竜江省から遼寧省へ引っ越す。名門
中・高・大学を卒業し社会科学院哲学研究所で大学院の指導教授となり、雑誌『哲学研究』
編集長まで務めた。1985年の残留孤児訪日調査団で来日し身元判明。清内路の父親と
再会し、以降数回一時帰国する。2007年、病気のため64歳で死去。

※お問い合わせ先

飯田日中友好協会

事務局 池田 真理子

090-4094-2084

一般社団法人 満蒙開拓平和記念館

電話& Fax 0265-43-5580

〒395-0303 長野県下伊那郡阿智村駒場 711-10